

横浜ビジネスグランプリ 2009 ファイナル グランプリは**新城 直**氏に

ビジネスコンテストでは**最大規模**となった標記グランプリ・ファイナルを2月15日にパシフィコ横浜にて開催し、各賞が決定しました。

グランプリにはパソコン画面を見にくい方、外国人など漢字を読めない方などに配慮した「人に優しいインターネット情報伝達支援」株式会社ナレッジクリエーション 新城 直氏となりました。



また、観客の投票により選ばれるオーディエンス賞には学校配付型キャリア教育マガジン「さくらノート」株式会社 盤水社 中山貴之氏、特に審査員からの評価が高かった審査員特別賞には流水式小水力発電機「ストリーム」のシーベルインターナショナル株式会社 海野裕二氏が選ばれました。

グランプリに輝いた株式会社ナレッジクリエーションの新城氏(写真右)には中田宏横浜市長(写真左)から賞状と副賞30万円、横浜PRオフィスの1年間無料使用権が授与されました。

今回は海外を含む全国各地から応募があり、昨年約3倍の**321プラン**の中から勝ち抜いた7名のファイナリストが、241名のお客様や、審査員、金融機関、支援機関等の前でビジネスプランを発表しました。

各ビジネスプランの発表後は、審査員長の海老根 智仁氏((株)オプト 代表取締役社長 CEO) や、アメリカからインターネット中継で審査に加わったアレン マイナー氏(サンブリッジグループ ファウンダー / 米国サンブリッジ パートナーズ 代表)など7名の審査員や支援機関から、資金・販売などについて活発な応援が表明されました。

第2部の交流会には120名を超える参加があり、会場内には残念ながらファイナルには進めなかった「セミファイナリスト」による展示コーナーもあり、ビジネスマッチングの機会として盛り上がりを見せました。

財団では、これら優秀なビジネスプランの実現と成功に向けて財団を中核とする「産・学プラス金融支援ネットワーク」を活用した継続的な支援をしていきます。

【受賞者一覧】

賞	事業所名		プレゼンテーション概要
	受賞者	地域	
グランプリ (市長賞) 副賞30万円	株式会社ナレッジ クリエイション	新城 直 横浜	パソコン画面を見にくい方、外国人など漢字を読めない方などに配慮した「人に優しいインターネット情報伝達支援」Web 合成音声システム【VDS：ボイス・デリバリ・システム】
オーディエンス賞 副賞10万円	株式会社盤水社	中山貴之 石川	中学生・高校生向け学校配付型キャリア教育マガジン「さくらノート」。若者に「職業価値」や「企業の存在価値」などを伝え、地元中小企業の採用支援を行います。
審査員特別賞 副賞10万円	シーベルインターナショナル株式会社	海野裕二 東京	都市部のエネルギー不足、環境負荷低減、再生資源の活用、電力の安定供給を目的として開発した流水式小水力発電機「ストリーム」。CO2を出さない環境対応型低コスト発電機。

<横浜ビジネスグランプリ 2009 の経過>

H20.9.10～H20.12.17 ビジネスプラン募集(321件応募)

H20.12.9 一次審査(書類選考) H21.1.9 二次審査(書類選考)

H21.1.24 ファイナリスト選考(24名のセミファイナリストのプレゼンテーション)

H20.2.15 ファイナル

<ファイナリスト一覧>

	ファイナリスト	プレゼンテーション概要
横浜市 市内	株式会社 ナレッジクリエイション	Web 合成音声配信システム「vds」の拡販事業化
	バイオメディカル研究所	デングウイルス感染症に対し早期検査キットの開発・販売
	<仮称>フューネラルセンター横浜	横浜市民のための遺体安置ビジネス
市外	株式会社ホームパートナーズ	優良な不動産販売担当者を紹介するサービスサイト運営
	お茶の通販・京都おふぶ茶苑 合同会社	世界中から宇治茶の茶畑が持てる茶畑オーナー制度
	シーベルインターナショナル 株式会社	流水式小水力発電機「ストリーム」の開発・販売
	株式会社 盤水社	学校配布型キャリア教育支援マガジン「さくらノート」

お問合せ先 財団法人横浜企業経営支援財団 経営支援部 経営支援課

〒231-0011 横浜市中区太田町2-23 横浜メディア・ビジネスセンター7階

TEL 045(225)3711 FAX 045(225)3738 E-mail danzen@idec.or.jp

URL <http://www.danzenyokohama.jp/ybg/top.html>

<審査員のご紹介> (50音順)

石川 貴氏((株)CHINTAI 前代表取締役社長)

2001年、株式会社賃貸住宅ニュース社(現CHINTAI)入社。経営企画・人事業務に従事。2004年、大証ヘラクレス市場に株式を上場。2005年、株式会社CHINTAI代表取締役社長就任、2009年1月退任

海老根 智仁氏((株)オプト 代表取締役社長 CEO)

1999年、株式会社オプトに入社。2004年、ジャスダック上場。2006年、広告代理事業の売上230億円突破でNO.1となる。2008年3月、代表取締役社長CEOに就任。

大久保 秀夫氏((株)フォーバル 代表取締役会長兼社長)

25歳で新日本工販株式会社(現・株式会社フォーバル)を設立。代表取締役に就任。1988年、当時日本最短記録で店頭登録銘柄として株式を公開。創業28年間で3つの株式会社を上場。

鈴木 孝二氏(エン・ジャパン(株) 代表取締役社長)

2000年1月、エン・ジャパン株式会社設立と同時に取締役に就任。2001年6月、設立から約1年半でナスダックジャパン(現ヘラクレス)にて株式を上場。2008年3月に常務取締役、同年6月に代表取締役社長に就任。

松井 利夫氏((株)アルプス技研 創業者 最高顧問、(財)起業家支援財団 理事長)

25歳でアルプス技研の前身でもあるメカトロニクス設計会社「松井設計事務所」を創業。1996年株式上場(現東証一部)。現在は会社経営の第一線を退き、財団・NPO法人を設立し、若手起業家育成に注力している。

日野 佳恵子氏((株)ハー・ストーリー 代表取締役)

1990年、広島市で主婦市場を専門とするマーケティング&コンサルティング会社『ハー・ストーリー』を設立。全国の主婦をインターネットで組織化し、日々、女性の声を集め、多くの企業に提言。

<アメリカからWEB中継による参加>

アレン マイナー氏(サンブリッジグループ ファウンダー / 米国サンブリッジ パートナーズ 代表)

1986年、シリコンバレーのオラクルに入社。国際部門の日本担当となり、翌年26歳で日本オラクル初代代表に就任。記録的な急成長に貢献。1999年に同社退職後「大好きな日本をアントレプレナー精神溢れる生き生きとした世界にしたい」という思いで、株式会社サンブリッジを設立。代表取締役社長に就任。数多くのベンチャーや新規事業に対して、投資や総合的な支援事業を展開し、7件のIPOを実現。